

東方青龍

とうほうせいりゅう(Green Dragon)

伊勢崎市立あずま中学校

学校通信 NO.366

令和8年9月28日(月)



少年の主張県大会より ～ 伝えたい! 「15歳、今の思い」～

9月19日(土)、県公社総合ビルにて少年の主張県大会が開催され、本校の3年生が出場し、努力賞を受賞しました。演題は「“A Iの主張”ではなく、“わたしの主張”を」です。表情の豊かさだけでなく声のトーンの変化も生かした圧倒的な表現力、そして自らの思いをまっすぐに届ける力強い主張など、持ち味が見事に発揮された発表となりました。テクノロジーが進化する現代だからこそ、自分の言葉で考える大切さを訴えたメッセージは、会場にいた多くの人々の心に深く響いたことでしょう。自身の想いを堂々と伝えきり、素敵な発表をありがとうございました!

「A Iの主張」ではなく、“わたしの主張”を

人間の私たちがA Iの言葉を主張するなんて、そんなにももったいないことを、私はしたくない。

私がこの「少年の主張」の作文用紙を手にして、一番に感じたのは、「この作文でさえ、生成A Iに頼りきって完成させる人もいるのだろう。」ということだ。今、止まることなく進化している生成A Iと、私たち人間との関わりについて、私の想いを主張したい。

中学二年生の夏休み明け、夏休みの課題として作文をいていた友達が、賞に選ばれていた。「すごいね!」そう声をかけると、友達はどこか申し訳なさそうに、「ぜんぜんだよ。この作文、皆に『A Iだろ』って言われて…」と答えた。気になって原稿をみせようと、なんとも言えない、モヤモヤした気持ちになった。たしかに、書きだしから結論までがびしっとまとまっていて、私の書いた、下手で、不器用な作文とは大違いだった。けれど、もしもこれが、生成A Iによってかかれている作文だったら。ふとそう考えると、「ずるい」「ひどい」「卑怯だ」と、よくない言葉ばかりがうかぶと同時に、何時間もかけて書いた私の作文が、とても馬鹿らしく感じた。でも、もし生成A Iではなく、本当に友達自身が書いた作文だったとしたら、ここまできれいにまとめるのに、どれだけ考えて、どれだけ時間をかけたのだろう。その努力が、「A Iだろ」なんて一言で片づけられてしまうなんて、そのほうがもっと馬鹿らしい。それでも、どちらが正しいのか、私にはわからない。友達の努力を疑ってしまったかもしれない自分と、人間と区別のつかないほどの生成A Iの技術に、大きな反省と、恐怖を感じた。

そこで、私もためしに生成A Iに文をつくってもらった。これから、私の最近の好物、「キッシュ」についての三つの文を読みあげる。私の書いた文はどれかを、心の中で一つだけ、予想してみてほしい。①「キッシュって、見ためはすごくおしゃれなのに、食べると口に広がる、やさしい味とのギャップがすごいです。」②「キッシュのほっとする落ちつきがすごくて、ついいつも選んでしまいます。」③「キッシュのおしゃれな見た目に対して、味はどこか茶わんむしみたいで、ひかえめなやさしさがすごいです。」どうだろうか。実際に私が書いたのは、最後に読みあげた③の文だけで、他の二つは私の文を元に、生成A Iによって作られたものだ。正直、ほとんど区別がつかないだろう。

このように、私たちはすでに、A Iと人間を区別することの難しい時代を生きている。「区別がつかないのならバレないし、宿題や作文もぜんぶ、A Iに頼ってもいいじゃないか。」と思う人も少なくないかもしれない。それでも、私とその「A Iの頼り方」を「もったいない」と感じるのは、私たち人間が自力でうまく伝えようと、表現しようと、頭を捻らせる、その工程にこそ“本当の価値”があると信じているからだ。その工程があってはじめて、何ものにもかえられない、「あなたらしさ」が生まれる。でも、それを必要以上に生成A Iに「頼りきる」ことをしてしまえば、気づかぬ内に、私たちは私たち自身の価値を、みずから捨ててしまうことになる。はたしてそれは本当に、A Iに頼ることによって得をしていると言えるのだろうか。

私が主張したいのは、決して「A Iを使うな」ということではなく、本当に大切なのは、「あなたが、あなた自身の“本当の価値”を守っていきながら、生成A Iと向き合っていくこと」だ。

人間の私たちが、A Iの言葉を主張するなんて、そんなにももったいないことを、私はしたくない。不器用でも、下手でも、人間の私たちだからこそ、伝えられる思いがある。主張できることがあると信じている。世界がききたいのは、他の誰でもない、生成A Iでもない、「あなたの主張」なのだ。

本人に聞いてみました!

Q 県大会という大きな舞台で伝えたかった思いは?

A わたしの主張のテーマはA Iとの関わりですが、今回の主張(文章)だけでなく、どんなときでもわたしの心の中にある『人間の出しゃばれところ』をもっと大切にしていこうよ!という思いでした。

Q 県大会を終えて今どんな心境ですか?

A まさか、こんな上位の大会まで出場できるとは思っていなかったの、とても満足しています。振り返ると、熱心に指導をしてくださった先生、応援してくれた友人などたくさんの方の支えがあったことへの感謝の気持ちでいっぱいです。特に広い会場を意識しての、体育館練習が心に残っています。中部大会は緊張していたけれど、今回は緊張感からも解放され、思い切り楽しむことができました。

